

私も過去、建設産業常任委員会の際に神山町か、行って見てきたんで非常にいいなと思ってるんですが、今回、市では美山の市民クラブハウス美山という設定を考えてみたいんですが、また、駅周辺であるとか、今日も事前に廃校の利用とあってあったんですけども、同じく私も、その廃校であるとか空き家の活用で、川や海に近いところ、山や温泉に近いところ、またスポーツができるところといったサテライトオフィスの展開をお願いしたいんですけども、現時点では、今、美山のところだけでコロナ禍でもサテライトオフィスをやっていく上では何か特色みたいなものを現段階で考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現在、美山公園で考えてるサテライトオフィスにつきましては、周辺のキャンプ場ですとか縄文文化、またスポーツ等のアクティビティが充実しているということ、また、ワークスペースに図書等の展示も併せて可能であるということを含めまして、美山プロジェクトの皆様など、民間事業者のプロジェクトが関わることによって、より魅力的な売りになるというふうに考えております。

また、今、駅周辺の民間の事業者につきましては、現在公募を行っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

ぜひ美山で私も期待してるのが、さっき言ったレジャーと自分の趣味を生かせる。何とかここを成功事例にさせていただいて、市内でいろんなことを点在できるようなサテライトオフィスの先進地になるように、ぜひ頑張ってくださいと思います。

あとそれから、元気応援券の件ありがとうございました、期日延ばしていただいて。

それを申し上げて、私の一般質問を終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。再開を3時25分といたします。

〈午後3時12分 休憩〉

〈午後3時25分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、和泉克彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。〔13番 和泉克彦君登壇〕

○13番（和泉克彦君）

和泉克彦でございます。

発言通告書に基づいて、質問させていただきます。

本日5番目ということで、お疲れではあるかと思いますが、最後までお付き合いください。

新型コロナウイルス感染症は、終息に向かうどころか、さらなる変異株の発生及び蔓延により、私たちの生活を大変脅かす事態となっております。糸魚川市におきましては、比較的落ち着いた状況ではありましたが、8月に入り、陽性者や感染者が増えてきております。

これまでは、いわゆる大人の感染が多く報告されていましたが、ここに来て、子供たちへの広がりを見せつつあることが大変懸念されます。教育・保育の現場では、休校・休園の措置が取られ、さらなる緊張感が広がっております。引き続きマスクの着用、手洗い、手指の消毒、換気など、これまでの対応の継続が、なお必要かと思われまます。それに加えまして、現在もワクチン接種などの方策が施されておりますが、変異株に対する効果、副反応等についても、不安視されてる方もいらっしゃいます。一日でも早い終息が待たれるところであります。

また、このコロナ禍において、私自身も高齢者の方への視点が向けられる機会となりました。特に高齢者の接種会場への交通手段について、あるいは日常生活必需品等の確保のためや医療機関への交通機関、交通網についても考える機会となりました。

以上に関連することにつきまして、以下の項目を伺います。

1、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について伺います。

(1) ワクチン接種会場への臨時バスの運行について伺います。

① 能生地域と青海地域への臨時バスの利用状況（結果）について。

② 今後、3回目の接種を行うことになった場合の、高齢者の方へのバスの運行計画について。

(2) 新型コロナウイルス感染拡大防止対策について伺います。

① 当市の新型コロナウイルス変異株の感染状況について。

② 接種による副反応等について。

③ 政府は、感染拡大防止対策として、ワクチン接種を主として進めているが、様々な事情で、接種ができない方々への配慮について。

④ 教育現場における、感染症対応とワクチン接種の有無などによるいじめに係る諸問題について。

2、運転免許証の自主返納と高齢者の交通機関（手段）について。

(1) 運転免許証の自主返納の支援事業の内容とその利用状況について伺います。

(2) 高齢者の交通手段としての路線バス、コミュニティバスの在り方について伺います。

以上で、私の1回目の質問を終わらせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

和泉議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、能生地域で1人、青海地域で3人のご利用がありました。

2つ目につきましては、今回の利用状況を踏まえ、再検討したいと考えております。

2点目の1つ目につきましては、県の公表によると8月11日時点で感染力の強いデルタ株の感染の割合が91.3%になっており、当市でもデルタ株による感染であると確認いたしております。

2つ目につきましては、多くの方に1日から2日程度の接種部位の腫れや痛み、発熱等が見られます。

3つ目につきましては、接種できない方からは、より一層感染予防に努めていただくとともに、偏見や差別を受けることがないよう啓発に努めてまいります。

4つ目につきましては、感染者が発生した場合は、休校措置を行うとともに保護者に対する速やかな情報提供を行い、児童生徒の健康状態を注視するよう指導いたしております。

また、感染者の人権上の配慮にも努めるよう指導いたしております。今後も接種の有無によるいじめが発生しないように指導を徹底してまいります。

2番目の1点目につきましては、高齢者の加害事故防止のため、申請による運転免許取消通知書の交付を受けた75歳以上の方に、2万円相当分のタクシー券、バスカード、シニアカー購入費を支援するものであります。

2年度の交付件数は182件であり、交付額に対するタクシー券の利用状況は、元年度では72.9%であります。

2点目につきましては、通院や買物など生活に必要な交通手段であり、利用しやすいダイヤやルート設定に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

どうもありがとうございました。

それでは、2回目の質問をさせていただきます。

1点目の能生地域と青海地域への臨時バスの利用状況に関しましては、データとしては少ないなというのが実感です。

実施されたのが、能生地域が7月3日の土曜日、青海地域は7月4日の日曜日でした。この7月の初旬、この時点で70歳代以上の接種を希望される方々は、ほぼ接種が終了していたものと思われれますが、これは私個人のそういう感覚ですけれども、そのような状況を行政の側では把握されていたのでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

現在、65歳以上の2回目の接種率は、市長の答弁でありましたように9割を超えてる、90%を超えてる状況であります。今ご指摘の7月3日、4日の前日、7月2日の接種率でございますが、1回目接種率が67%、2回目接種率は29%でありました。

今回の運行なんです。6月に入りまして、市民の方から臨時バスの運行できないだろうかという意見はありました。

また、政府の目標として7月末までに2回接種しようという目標があった中で、いろいろやっても交通手段の確保が難しく、ワクチン接種できないという方にぎりぎり7月末で打てる最後のタイミングでやらせていただいたということですが、いずれにしましても、状況を踏まえる中で、今後3回目ということになれば、再度検討してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

どうもありがとうございます。具体的にそういうようなデータ、数字、接種のパーセンテージ、あるいは6月に入ってから地域の方々からの声が届いているということですが、実際に6月末の市の広報で、実際に7月、能生地域と青海地域に向けてバスを出すという、広報で出されましたけど、たまたま僕が配付する当番だったんですね。そのときに何でこんなときになってということいろいろ言われまして、ある意味火消し役に回った部分はあるんですけど、そのときにやっぱり救われたのは、地域の皆さんが、やはり運転免許のある方々が、運転免許のない高齢者の方をボランティアという形で病院に送迎するという、そういう何ていうか協力体制がおのずとできていたということを勉強させていただいたんですけども。

ただ、やはりそれって人と人との信頼関係で成り立っていることなんです。やはり車を運転するというのは、常に事故がついてるものですから、それによって、せっかく信頼関係を築いたものが、一瞬にして崩れるというおそれもありますので、やはり公的なのか行政のサービスをご検討いただければというふうに考えております。

そこで、その次の、今、変異株とかが出てきていますけども、実際に3回目以降接種が行われる場合に、高齢者の方々へのバスの運行といいますか、そういうことをお考えに、実際にこういう状況を踏まえてお考えになられてるかどうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

3回目の接種という議論が行われているわけですが、場合によっては3回目の接種が糸魚川における降雪期、雪の降っている時期に当たるかも分かりません。そうするとまた、そういう状況の中で、バスの運行がいいのか、また別の方法がいいのかと、いろいろなことも今、医師会

なり医療機関とも話をしておりますので、そういういろんな条件を見る中で、何が一番適切なのか、ある意味1回目は手探りでやってきましたけども、3回目は、1回目、2回目の接種の状況を踏まえる中で取り組んでまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

ありがとうございます。やはり周辺地域が、糸魚川総合病院さんとか最寄りのかかりつけ医といえども、やはり距離的に遠いという地理的条件がありますので、ぜひそのところもご配慮いただければというふうに思います。

それでは、（2）の新型コロナウイルス感染拡大防止対策についてに移ります。

ご答弁では、県の公表したデータ、それと変異株についての認識をお示しいただきました。実際は、現在、私たちが接種してるワクチンというのは、変異株、あるいはデルタ株、最近出たというミュー株、そういうものに対してではなくて、2年前といいますか去年ですかね、発生当初に出てきたウイルスに対するワクチンということになりますよね。実際そういう形で流れてきていますが、実際にマスコミ等でも伝えられていますけれども、2回接種したにもかかわらず、また感染してしまったという、あるいは陽性反応が出てしまったというブレイクスルーという、そういうことが起きております。

糸魚川市においても、接種の方針につきましては、国あるいは県の方針に従って行わなければならないということは十分承知しておるんですけれども、そのブレイクスルーという言葉が皆さんに流されている状況にありまして、そのことを不安視するような声とか動きとかというのは、ないものでしょうか。ありましたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

ブレイクスルー感染につきましては、今、新型コロナウイルスワクチン推進室には、特に相談は寄せられておりませんが、いずれにしてもワクチン接種後も感染の可能性というのはありますので、引き続き今、和泉議員おっしゃるように感染予防対策をしっかりとさせていただきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

やはり不安の中で、皆様方が協力的にそういうワクチン接種に臨んでおられるというふうに思います。そんな中で、以前から何人かの議員の方々から、糸魚川市に隣接する県外の自治体の感染状況を公表してほしいというような発言等、聞かれるんですけども、実際に、いまだに市としては、

そういう対応がないんですけども、それに対して理由、お答えいただければよろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

近隣県の状況については、ホームページにおいて、長野県、富山県のホームページをリンクさせておりますけども、今お話のありました小谷村、朝日町等については、実際はそこから、隣県のところから入っていきけるんですが、なかなか入りづらい状況であるということであつたりします。それから、市内で感染者が発生したとき、公表するときに、実は、併せて小谷村だとか朝日町のホームページにリンクできるような状況になっておるんですけども、今、和泉議員からお話がありましたように今後、感染者の発生時だけでなく、隣接する上越市も含めたホームページにリンクできるよう工夫していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

今ほどご答弁いただいた、ホームページ等を活用して情報収集をすると、実際に、私も市のホームページから県外の自治体のところに行くんですけど、富山県に入ると、富山県の全市町村が出て、朝日町どこだろうみたいなことで、探さなきゃいけないと。特に高齢者の方においては、そこになかなかどり着けない方も多と思うんですよ。そういうようなことで、特に高齢者、高齢者とばかり言って申し訳ないんですけども、そういう方々へのやはり情報発信、そういうことをちょっと工夫していただきたいと思います。

実際には、仕事で県境をまたぐんですよ。富山県、あるいは長野県に行かれる。どうしても避けられない方々というのは、日常生活の中であるわけですが、そういう方は感染状況を逐一見て、今日はたくさん出てるから仕事やめようというわけには実際いかないんですけど。ただ、お年寄りといいますか高齢者の方に関しては、そういう情報が手軽に入ってくると、その日、通院だとか買物に行こうという、そういう行為をその情報によって、今日はちょっとやっぱり多そうだから控えてみようとか、そういう柔軟な対応ができるかと思っておりますので、それもやはり感染防止の1つの手段だと思っておりますから、やはり高齢者の方をお守りするという形で、できたらそういう方向けの情報発信の方法を、いま一つ考えていただければというふうに思います。

それでは、②の接種の副反応等についてですが、実際に私のところにもワクチン接種の案内が届きまして、もう既に、ずっと前に届いてますけど、その中に接種についての説明書がありまして、皆さんもお読みだと思いますが、答弁にあった副反応に、さらに頭痛とか、ほかの症状も書かれています。それと、さらにそれに続いて、まれに起こる重大な副反応としてショックやアナフィラキシーがありますと記載されてます。さらに、それに加えて、なお、本ワクチンは、新しい種類のワクチンのため、これまでに明らかになっていない症状が出る可能性がありますとも記載されてるんですよ。これを真剣にというか、皆さん真剣にお読みだとは思いますが、深読みすると、どういうワクチンなんだということにつながると思うんですよ。本当に深刻に受け止められる方が

いらっしゃるかと思えます。

この糸魚川市において、そういうような形で、この副反応の事例として特に取り上げるべき事例がありましたら、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

まず、冒頭なんですけど、ワクチン接種を始めるに当たり、やはりアメリカの状況とか糸魚川のお医者さんたちもかなり心配しまして、ワクチン接種当初は、接種後、今15分しか経過観察してないんですけど、どこの医院も30分ぐらいの経過観察をして、今、議員おっしゃる心配をしてまいりました。

その結果、今の状況どうかということでもありますけども、接種後に血圧の上昇あるいは低下、または蕁麻疹のアレルギー反応があった事例を聞いておりますが、いずれも一時的なもので回復しており、重大な副反応には至っておりませんし、また、接種を進める段階では、医院の医師の皆さんも、中央病院の先生方に来ていただいて講習を受けたりと、いろいろ学びをさせていただいております、学びをする中でどう対応していくかということもやらせていただいておりますので、徐々に治験が高まる中で適切な対応ができるものというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

いろいろ対策を講じられてるということが分かりました。やはり再三申しますように、不安の中でということになります。

全国の中にも、ある自治体では、特に親御さんが、自分のお子さんに接種していいものなのかどうなのかということで、その不安を解消するために実際に打たれた方の症状、そういうのをアンケートを採って、本当に手数重ねさせて申し訳ないんですけど、アンケートで、いつ打って、どれぐらいにどのような症状でとか、例えば発熱があつて、どれぐらい出たとか、あるいは接種部位のかゆみとか腫れとか、そういうようなことで情報共有というか、そういうこともされてるようなんですよね。やはり特に親御さんも、自分も打ったから自分の子供にも打たせようという方と、自分は打ったけど、そういう副反応が心配だから自分の子供には打たせないようにというので、半々ぐらいですよね、データからすると。だけど、そういうような不安を解消して接種してもらうために、やはりそういうようなお母さん方というか親御さん方のそういうアンケートを採って、これからは多分接種が、年齢が下がっていくかと思うんですけども、もしできましたら、そういうような親御さんの悩みというか不安を調査できるような、そういうような取組も、もししていただければというふうに思います。早いところは、もう12歳上ですか、80%ぐらい終わってる、福島県の自治体でしょうかね、終わったりしてるところもありますから、そういう先進の地域の取組というか、それも参考にされて、やっていただければというふうに思います。

次に、接種ができない方々への配慮についてですが、やはり偏見や差別があってはいけないということで、その啓発に努めるということでしたが、念のため具体的になんですけども、どのようなものがあるかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

先日もこんなお話を伺ったんですけども、ワクチン接種にご協力いただき、ありがとうございますという表現に対して、反発をされた方がいらっしゃいます。その方は、ワクチン接種をできた方は、できる人は、確かに協力できるけど、私はワクチンを打ちたくても打つことができないんだよ。そういう人にもご協力いただき、ありがとうございますというのは、いかがなものかと。こんなような話をいただきました。

人それぞれに対して、その受け止め方というのは違うと思いますので、それには十分配慮しなければならないと思いますし、私ども市のホームページで紹介してる内容をご紹介させていただきますと、新型コロナワクチンの接種は強制ではありません。接種を受ける方の同意がある場合に限り、接種を行います。そのため職場の周りの方などに接種を強要したり、接種を受けていない人に差別的な扱いをすることのないようお願いいたしますと書いてありますけども、それはやはり具体的にどうしていけばいいかというのをそれぞれが考えながら対応していかなければならないというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

ありがとうございます。実際に厚生労働省のホームページにもワクチン接種の強制はしないというような、そういうところが大原則として載っています。

ただ、厚生労働省の公式ホームページの中にそういう文言があるのに、国のほうがワクチンパスポート、ワクチン接種証明書の発行によって、国内のイベント等に活用する方向で検討するというような情報を耳にしております。これまでに政府が示しているワクチンパスポートの使用目的というのは、海外渡航の際にワクチン接種の事実を証明するものであって、それ以外の目的で接種した人だけが優遇されないようにというような、そういうような解釈ができるんですけども、厚生労働省が出してるホームページの原則と、国・政府が言っているところのその矛盾点があるんですけども、ここがやはり取扱いとしては非常に難しいところになると思います。

この糸魚川市としては、やはり国から、県、糸魚川市というふうに通知等が下りてくるわけですけども、その際に、行政サービスに対しては慎重に行うべきだとは思いますが、そのことについてはどのようにお考えでしょうか。現時点でよろしいですので、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）



渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほども市民の方のお声をご紹介させていただきましたけども、やはりこの段階へ来て、かなり接種が進む段階において、接種できない人というのの声が結構出てまいりました。それを考えますと議員ご指摘のとおり、やはりここは慎重に判断しながら進めていかなければならないだろうというように考えておりますし、その方向で進めていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

その政府が、国内イベント等に活用するという点についても、今回ワクチン接種を受けたからといって、もう感染しないということはありませんし、それに実際にブレイクスルーということで2回接種しているにもかかわらず陽性反応が出たり感染したりということがあるわけですよ。これを政府が検討してるとはいいですけど、ワクチンパスポートを盾にして、人流が増えれば、自分は打っているからということで動き回りますよね。それによって、さらにその感染の拡大につながるのではないかと、そういう懸念があります。

とは言うものの、公共の福祉としてワクチンを接種することで感染拡大を最小限に防ぐという、そういうことも理解できるわけですよ。その接種した方々だけが、そういうことはあっても、それによって何らかの形で優遇されるということがあっては、やはりいけないというふうに私は思います。もしそのようなことがあれば、接種できない方々への大きな差別にもなりますし、ほとんどの人が打ってるわけですから、それが今度、同調圧力となって、打てない人に対してのプレッシャーになるということも懸念されますので、ぜひともそういう行政としてのサービスの中に政策の中に、打った人を優先ということではないように、ぜひともお願いしたいと思います。

次は、教育現場、保育現場においてということですが、非常に私も、かつて現場におりましたので、この情報を聞いたときには、感染が確認されたお子様とか、そのご家族は、さぞかし不安な日々を過ごされてることというふうに非常に心が痛んでおります。一日でも早い回復を願うものであります。

また、教育あるいは保育の現場に携わっておられる方々も、日々、緊張の連続かとも思いますし、その状況もお察し申し上げます。

さて、答弁にありましたけれども、児童生徒の健康管理及び感染防止対策として具体的なものをお聞かせください。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えします。

まずは、日常的な健康管理を保護者に徹底することです。特に感染することは大変かわい

そんなことでありますけれども、やはり感染した子供が学校に来るということで、また感染拡大ということにつながりますので、やはり日常的な健康観察、特に出がけの体温測定、これがまずは大事かというふうに思っております。そして、マスクの着用、それから手指消毒、これを徹底するように、まず求めています。

さらに教育活動においては、やはり感染防止対策を徹底するとともに、やはり感染が起らないような教育活動を工夫しながら行っていくということを、これまで以上に緊張感を持って行っていただくように指示しております。

また、感染が起こった際の緊急対応、こちらのほうもできるだけ迅速・的確に行えるようにシミュレーションしながら、日々の教育活動、学校運営を行うように指示してるところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

ありがとうございます。

次に、感染とか、あるいは陽性反応が出たという、特に児童生徒の情報発信ですが、どこどこ小学校とかどこどこ保育園というのが、今回はもう明確に出たわけですね。そういうときに学校及び保育園、幼稚園に復帰する本人のケアというか、そういうことも大切だと思うんですけども、それが僕いつもやっぱり一番気になるのが、常にいじめというか、何でもいじめの種になるので、接種の有無によるいじめの発生を防ぐための具体的な方策というか、そういうものをもしお示しいただければお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

これについても前々から申し上げているところですが、いざ感染が起こるその前に、もう事前に感染が起こる前から感染を自分ごととして捉えさせ、そして、感染はいつでも、誰でも、どこでも起きるんだというふうなことを子供たちに指導を徹底し、いざ感染したときに、その人の人権に配慮した言動、冷静な言動を取るように道徳の授業など、あるいは特別活動、学級指導とかいろいろな活動の中で、繰り返し繰り返し指導を徹底しているということでもあります。今回、残念ながら学校での発生があったわけですが、学校の中で感染者が出たときにも校長が全校指導を行ったり、学級担任が子供たちに対して指導を行ったりするなど人権上の配慮、それから過度に不安にならないような心のケアに努めているところでもあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

ありがとうございます。私も6月の一般質問で、いじめのないようにということで質問させていただいたときに、特別なときだけではなくて、常日頃からご指導されてるということは分かっておりましたが、やはりどうしても気になるので、確認させていただきました。

子供たちも親御さんもやっぱり心配なんですけども、実際に教育・保育の現場におられる皆様にも、どうしても感染防止の最前線に立たれておりますから、ご自身の健康管理も十分留意されるとともに、あまりご無理なさらずにタッグを組んで、3密はよくないと言われてますけど、心を通わせて乗り切っていただきたいというふうに思います。

次に、運転免許の自主返納と高齢者の交通機関についてです。運転免許証の自主返納をされる方への支援事業と利用状況については、ご答弁のとおりで分かりましたが、そのほかに行われている支援策がありましたらお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

私ども通常の事業に加えまして、昨年度、特に高齢者の方々向けの強化とすることで、広報で特集を組んでございます。

特集の内容では、安全に運転を続けるための安全運転サポート機能導入支援事業の補助金の紹介であったり、高齢化に伴う運転技能の低下から、自ら危険を避ける補償運転の推奨などをご紹介しているということでございます。今後もこういった高齢者の方々を、特に、ターゲットという言い方はおかしいですけども、対象にしながらしっかりと交通安全の取組・啓発に努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

ありがとうございます。くれぐれも自己啓発を進めていただきたいと思います。実際に高齢者の自主返納につきましては、これは2017年に改正道路交通法で75歳以上のドライバーについては、認知機能検査と高齢者の講習を受けなければ免許の更新ができないというふうになっております。

ただ、自主返納については、やはり高齢者のご自身の生活が非常に不便になるということがやっぱりネックになっているんですね。特に平成27年度ということで、もう6年ぐらい前の調査で古いんですけども、その調査の中にやはり都市規模が小さいとか、あるいは自家用車への依存度が高いほど、運転継続者の運転頻度は高くなって、自主返納への意識は希薄になるという調査結果が出てますし、都市規模が小さい地域の自主返納者は、電車や路線バスの整備よりも乗合タクシーやコミュニティバスの割引の充実が必要と感じる傾向があるという、そういう結果が5つ出てるんですけど、そのうちの2つが、この糸魚川市に当てはまるかなというふうに思います。

そこで、糸魚川市においても行政としては、総合計画を立てられるときにこれらを加味したものが実際に行われてると思います。糸魚川駅中心に路線バスとかを走らせまして、その周辺部につい

てはターミナル地点を設けて、それを放射状に伸ばしていくというようなことで、取組については、そういう意見とかを反映されてるということが分かるんですけど、今回はちょっと時間があまりないんですけど、特に周辺部、青海地域の親不知地区と市振地区について、ちょっと焦点を絞ってみたいと思うんですが、実際に、現在はその地区に向けた、これ長いんですけど、青海地域医療受診者送迎バス、通称、医療バスですね。それとあと、コミュニティバスがあるんですけども、この利用状況をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

私のほうでまとめて答弁をさせていただきます。

通称、医療バスにつきましては、毎週水曜日、青海地内の医療施設とあさひ総合病院への通院を目的に、1日2.5往復、無償で運行しております。令和2年度のご利用は、年間369名でございました。

コミュニティバスのきらら青海・玉の木線は、毎週の金曜日、玉ノ木地区と今村新田の間を1日3.5往復、毎週金曜日です。1乗車100円で運行しております、昨年度のご利用は235名でございました。

もう1ルート、上路・玉ノ木線というのがございます。これは市振駅と上路の間を2往復設定しております。これは予約があった際に運行しておって、以前は決まって使ってくれる方がいたんですが、昨年度のご利用はございませんでした。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

ありがとうございます。今ほどデータをお聞かせいただきましたけど、やはり親不知地区と市振地区への行政としてのサービスは、しっかりなされているということが確認できましたが、ただ、利用状況が芳しくないという現状は、何らかの原因があると思います。例えば地域民への交通手段の周知が薄いとか、あるいはその地域の方々の生活になじんでいない、溶け込んでいないというようなことが推察されるんですけども、それはあくまでも推察なので。でもほかの地域では、情報によるとフルに活用されてる方がいる、そういう地域もあると聞いてますので、やはりこれもちょっと検討する必要があるかなと思います。

ちなみに福祉の面での高齢者への行政としてのサービスがありますけども、それをちょっと教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

65歳以上の在宅の高齢者の外出を支援する制度として、3つあります。

1つ目につきましては、お出かけパスで、路線は、糸魚川バスが運行しませぬ蓮華線を除く市内の路線と頸城バス運行の労災線を対象といたしまして、1か月1人当たり500円の個人負担で乗り放題となり、1か月券と6か月券がございます。

2つ目は、市振・玉ノ木地区をルートとします富山県朝日町の公共バスを利用する高齢者に対しまして、年間4,000円、10月以降は2,000円の回数券を助成するものであります。

最後3つ目は、70歳以上の市民税非課税者に対しまして、年間4,000円、10月以降は2,000円のタクシー券を助成するといった福祉のサービスがございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

ありがとうございます。大変充実したそういうサービスがあるということが、再確認できました。

実際に親不知地区の方が、コミュニティバスと路線バスの組合せで病院、特に糸魚川総合病院などの糸魚川地域の医療機関や買物等に利用されている、そういう現状をお聞きしています。

ただ、コミュニティバスの今村新田入口、これはいろんな方からも情報があると思うんですけど、近くにスーパーはあるんですが、雨・露をしのぐところがなくて、どうしてもほとんどの方が手前のきらら青海で乗り換えるという現状があります。そのきらら青海では、建物ですから雨・露を防ぐこともできるし、場合によってはトイレをお借りすることもできます。こういう声も実際にお聞きしています。

そこで、親不知地区と市振地区は、私自身の地元でもあるわけですけど、実際に地域を回らせていただくと、医療機関を受診して、その帰りに買物をして帰りたいたいという、そういうニーズをよくお聞きします。それで、ただ回っているだけですから、正確なデータというか数字は出せませんが、実際に地域の皆さんの声として聞こえてきます。

市振地区と親不知地区と一くくりにはやはりできなくて、市振地区の方というのは、比較的隣の富山県朝日町のほうに目が向けられていまして、現行の交通手段に加えて、先ほど嶋田所長からお話があった朝日町公共バス、通称、あさひまちバスというのがありますが、その運行もありますから、さほど市振の方は不便さを感じられていないようです。

ただ、親不知地区には、青海や糸魚川の医療機関を受診したいという方もいらっしゃいますし、逆に、市振地区の方同様に朝日町の医療機関を受診したいという方もいらっしゃいます。朝日町で受診される方というのは、水曜日の医療バスを使うしかないんですね。それ以外は、えちごトキめき鉄道を使うか、あるいは家族の送迎、あるいは知り合いの方に乗せていってもらおうということしかありません。ですから、この青海地域医療受診者送迎バスは、やっぱり名称のとおり買物ができなくて、医療機関の受診だけが目的になってるんですね。そういう不便さがあるって、大変不自由だというお声を聞いております。

ですから、このような現状を踏まえますと、現行の週1回水曜日の朝日町方面への医療バスと、

週1回金曜日のコミュニティバスの運行状況の充実や改善と、朝日町バスの親不知地区への延伸のご検討を提言したいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ご質問のとおり方面別の利用状況を見ますと、医療受診バスの方面別を見ますと、市振・玉ノ木の方はほぼ朝日のほうへ、歌・外波の方が本当に半分半分で、その分、コミュニティバスのほうは、市振・玉ノ木の方より歌・外波の方が多く乗っていただいとるというような状況です。

コミュニティバスの充実、例えば1日の運行便数をもっと増やすとか金曜日以外にも運行する。また、乗換え等で今お願いしておる糸魚川総合病院への延伸とか、朝日町のバスをこっちにもっと外波のほうに持ってくる。様々な利便性の向上の手段とかアイデア等はございます。

ただ、公共交通としてというふうに考えますと、鉄道ですとか青海地内から東側、路線バス等の競合といった面ですとか、当然、行政の負担するコストということも考えると、全てやらさせていただくというのは厳しい面ということも正直ございます。

一方、車の運転ができなくなってくるお年寄りというのは、通院、買物ができないと地域で生活していくための足というのがなくなってしまうので、ある意味、地域を支えるインフラという側面も、特にお年寄りにとってはあるのかなというふうに思います。

そうなりますと、今、朝日町のバスの延伸ですとか、コミバスの充実、今こうやったらいいと思いますというようなのはちょっと、すぐ私、今の段階でお答えを示すことはできないんですけど、まずもって、本当にニーズと地元の声を、まず地元へ入ってお聞きしまして、一方で、今私申しましたような市の考え方というのも伝えて、意見を交換させていただきながら、ご指摘の高齢者にとっての公共交通の在り方というのをぜひ探らせていただきたいというふうには、私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

ありがとうございます。やはりクリアしていかなくちゃいけない問題がやっぱりたくさんあって、なかなか早急には解決には至らないと思うんですけども、ぜひどんどん、どんどん過疎が進んでいくもので、そういう高齢者が増えてくるという現状もありますから、ご検討願いたいと思います。

あわせて、最初に質問させていただいたワクチン接種会場への臨時バスについても、この交通網が整備されれば、特別に臨時運行を考えなくても、こういう交通手段がありますという形で、それを利用していただくという形もできるかと思っておりますので、ぜひご一考いただきたいというふうに思います。

やはり一緒に高齢の方と住んでると、いろいろこういうことが問題だとか、こういうこと困ってるんですよねというのを直接お聞きするので、実際にそこに住まわせてもらって、なかなかやっぱり便利な中心地に移り住むという決断もできないですし、生まれ育ったところへの愛着心がやっぱり強いのが高齢者の方々だと思います。家族の方も、町なかに家があるから一緒に住もうよと言っても、やはり自分が生まれ育ったところで生涯を終えたいというふうに考えていらっしゃる方が多いので、そういう方々のお気持ちも酌んでいただければというふうに思います。

最後に、まとめとして前回のよう一言申し上げたいと思うんですけども、コロナ禍において非常に皆さん、私も含めて非常に不安な日々を過ごしておりますが、やはり3密理論というのが先行して、それを盾にして、例えばステイホームっていうの、本当はステイ・アット・ホームですけど、あるいはソーシャルディスタンスですかね。そういうようなことが日常生活では当たり前のことというふうに定着してるんですけども、そういう中に土・日とか連休には、新幹線乗るとか電車に乗るとか、あるいは買物は3日分まとめて買えとか、それとか児童公園では、子供は遊ばないように閉鎖するとか、あるいは自粛警察とかいって、近所で営業してる店を密告する。今回も時短要請とかがありますが、そういうような動きが、糸魚川市にはあまり見られないのかもしれないですけど、全国的にはそういう動きが情報として伝わってきています。

つまりこれは、要するに本来、我々に与えられている自由権を奪おうとしてるような流れになっているというのが、非常に怖いと思います。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、和泉議員の質問が終わりました。

時間が来ましたので。

○13番（和泉克彦君）

ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

本日は、これにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後4時17分 延会〉